

- 1 派遣期日 令和4年11月4日(金)
2 派遣先 学校名 茅ヶ崎市立浜之郷小学校
所在地 神奈川県茅ヶ崎市浜之郷90番地



3 研修内容

(1) 視察校における研究への取り組み

茅ヶ崎市立浜之郷小学校では、子ども達と教職員が「支えあい・聴きあい・学びあう」ことを学校教育目標としており、「同僚性の構築と自立性の樹立を基盤とした校内研修」を中軸に据えて取り組んでいる。子どもの学びを保障するための授業研究を学校運営の中核としており、授業中の子ども達の姿・同僚の授業から、学びを深めている。教員全員が授業を公開することで、全校の子ども達を全員で見て育てるということであり、授業をひらき、授業で子どもとつながり、授業で同僚とつながることを大切にしている。

授業実践においては「子どもの学びの尊厳」「教材の発展性」「教師自身の哲学」を掲げており、重点活動として、「丁寧な学びをつくる」ために以下の3点に取り組んでいる。

- ・教科の本質を追究し、オーセンティックな学びをデザインする。
- ・学年授業研などを通して、学年での教材研究を深め、共有し、全体で学びの質を上げる。
- ・学びを支えるための「学びの作法」を丁寧に育て続ける。

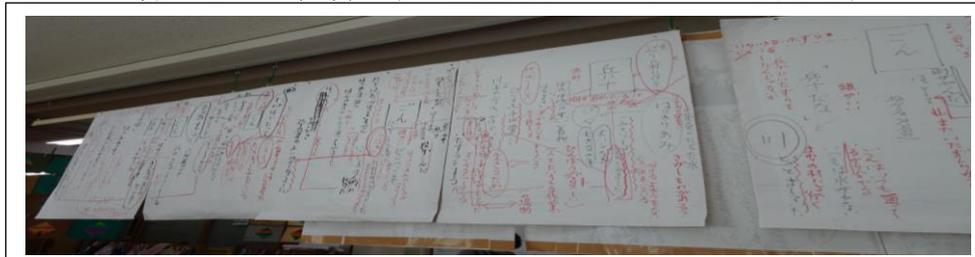
(2) 公開授業・研究協議会

① 4年国語「ごんぎつね」(段落3) 西岡 正樹先生

本時は第3段落「ごん」のつぐないが始まる場面について、「おれと同じひとりぼっちの兵十か」「うなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをしたと思いました」という2つの文のつながりを見つけるという学習である。

導入では、場面の確認と自分の考えを整理するために音読を行った。聞き手を意識して音読をするようにという助言があった。展開では、児童の発表により出来事を確認し、順序よく整理した。その後、登場人物・場面・文・言葉のつながりを見つけ、考えや思いを共有した。児童は発表する際は、「～さんと似ているかわからないけれど・・・」や、「お話ししていいですか」、「～の部分ですが」、「2つつながるところがあります」などと付け加えて発表することで、聞き手を意識した発表の工夫が見られた。また、「すごく似ています」、「違う考えです」と、友達の考えと比べながら発表していた。友達の考えと比べたりつないだりして話すことを繰り返し、場面についての話し合いが徐々に深まっていた。終末ではグループでの話し合いを行い、全員が話すことができる場を設けていた。

教師は、一生懸命に発表する姿勢を褒めながら、友達の話を聞くことで様々な考えがあることが分かること、頭の中が整理されていくことの良さを伝えていた。



「ごんぎつね」
積み重ねの
掲示物

② 5年道徳「あたたかな小さい手のリレー」(フジテレビ「奇跡体験アンビリバボー」
2022. 8. 18放送より)

内容項目【B-7 親切、思いやり 誰に対しても思いやりをもち、相手の立場に立って親切にすること】 竹内 一央先生

今回使用された教材は、全国信用組合中央協会が主催する「小さな助け合い物語賞」

の第11回（2020年）のしんくみ大賞に選ばれた作品で、テレビ番組で放送されたものである。視覚障害のあるバス通勤の男性と乗降をサポートする小学生との話である。

導入では、番組を視聴することで、読むことが得意でない子も全員が同じ土台で授業に入れるように工夫されていた。展開では、それぞれの想いについて、語り合い聴き合う活動を行った。グループ活動から全体への活動へと広がっていた。話し合い中、自分の考えをノートに書いて整理する子、友達のことをメモする子など、自主的な活動も見られた。教師は、発表した児童に、誰の考えを聞きたいかを尋ね、児童の発表をつないでいた。また、児童のつぶやきを全体に広げたり、相談する児童や助言をする児童を肯定する声かけをしたりしていた。また、児童の発表が小学生の立場に偏り、類似してくると、発表を生かして切り返し、「優しいのは小学生だけかな。」「おじさん側の気持ちはどうなのだろう」「クラスみんなの優しさ、この小学生の優しさは同じなのかな」と、別な立場や多角的に考えてみるよう発問していた。終末は、なりたいたい自分につながることを授業や自分自身を振り返りながらノートに書いていた。

③ 研究協議会

5学年道徳の公開授業について、全体での協議が行われた。「研究協議会での語りの約束」として以下の5点が定められていた。

- ・授業づくりの奥深さ、面白さを共有し、自分は何を学んだのか、自分が真似できることは何かを語る。
- ・決して授業の批判はしない。自分ならこうするという意見はやめる。
- ・どこで学びが生まれたか、どこで学びがつまづいたかを語る。
- ・授業の中で、授業者が聴く・つなぐ・もどす（教師・子ども・教材テキストの3者の相互）をどのように展開していたかを振り返る。
- ・同僚が授業を公開したことに対して感謝の念をこめて、全員が話す。

4 感想

(1) 授業について

- ・授業を参観した2学級とも、机は終始4人グループの形に配置されていた。自主的にグループの友達に相談したり、教えたりする場面が何度も見られた。グループ活動ではない場面でも、協働的な学びがしやすいと思った。
- ・2学級とも、児童の発言を中心に、授業が進められていた。教師は必要最小限の指示を出し、必要に応じて児童の発言をつないだり生かしたり促したりしていた。「言葉にしてあげるといいよ。」「～ってこと？」「みんなの話を聞いていると、こんなものがあるんだなと思って言いたくなるし、頭の中で整理できるね。」「誰に聞いてみたい？」「聴きたい相手がいるっていいよね。」など、積極的に話をすること・聞くこと・言葉で表現することを大切にしているということが伝わった。
- ・児童は友達の発表を最後までよく聞き、考えを深めていた。自分と異なる考えに対しては、「～さんとは違って」、似ている意見には「～さんと似ていて」などの前置きをしながら発表していた。聞く側も決して否定せずうなずきながら聞いており、発表のルールや発言を認め合う雰囲気づくりがされていると感じた。

(2) 研究協議会について

- ・浜之郷小学校では「研究協議会での語りの約束」を設けることで、子どもを見る目の鋭さを養うということであった。授業を参観する視点が明確になるので、意識して参観でき、研究協議会での話合いの軸がしっかりする。今回の協議会でも、授業者が気付かなかった児童の変容やつまづき、授業者自身の発問の意図などについて話題が上がった。こうして授業者と一緒に振り返りながら新たな方法を考えることで、授業改善につながり、他の教師のよりよい授業づくりにもつながっていくのだと実感した。

(3) この研修を通して

今回の研修を通して、授業者として言葉をつなぐ大切さ、学び合える授業展開、参観者としての重要な視点について再確認することができた。本校でも授業づくりに生かし、個で学び、協働で学ぶ、児童中心のいきいきとした授業実践を進めていきたい。